



医学科長就任の御挨拶

— 教務と入試を担当します —

人体解剖学講座 教授 石田 肇

琉球大学医学部医学科同窓会の皆様、この4月から医学科長を拝命した、人体解剖学講座の石田肇です。専門は、講座名のとおり、解剖学で、研究は主に形質人類学です。医学科教務委員長、医学部教育企画室も担当しております。まさしく、医学教育をしっかりとる役目です。今回は、医学科長と言うことで、入試委員長も兼務することになりました。医学生の入り口から出口までをお世話いたします。須加原医学部長・医学研究科長も医学教育には極めて熱心で、後押しをしていただいております。

琉球大学医学部医学科の教育の急務は、医師国家試験の合格率を上げることです。私が赴任して12年になりますが、ずっと低迷が続いている状況です。これは、医学生のレベルが低いのではなく、国立大学の伝統である「学生の自主性に任せた勉学」と、琉球大学の本学規程が極めて「ゆるい」という2点にあるかと思います。しかし、全国的には医学教育改革が進み、平成13年に、文部科学省の審議会から、医学教育モデルコアカリキュラムによる教育内容のガイドラインが提示されました。医学医療の進歩に合わせて、平成22年度には2度目の改訂がありました。これらにかかわる項目を学習し、共用試験（CBTとOSCE）を受験し、合格して、臨床実習に進むこととなります。CBTとは、コンピュータを用いた客観試験です。これは、医学知識や臨床推論の能力を問うものです。OSCEは、客観的臨床能力試験の略で、技能や患者さんに接する態度を見ます。

琉球大学医学部医学科でも、数年前に一度決めていたのですが、改めて2年前に、共用試験の合格を臨床実習参加の要件としました。昨年度はCBT

合格基準を65%にしました。その結果、成績が上昇し、全国平均よりも2%以上も高くなりました。このように、習得すべき知識と技能を身に付けた上で、積極的に臨床実習に参加してもらいます。

入学から、4年間の医学専門教育をどのようにしたら、学生の皆さんが積極的に勉学に励むことができるかを、医学科の教務委員会および医学教育企画室で討論し、企画を立てています。具体的には、1年次は、救急車同乗実習に加えて、平成23年度は、1年次に外来付添い実習（選択）を設けました。外来の患者さんの付き添いをするにより、患者さんの立場に立つ、また、病院の仕組みを体験するよい機会になるものと思います。また、生命科学を開講し、医学の基礎を学んでいただきます。1年次は共通教育のみで、楽をしてしまい、医学へのモチベーションが下がる傾向にありますので、いくつか専門的な内容を加えた次第です。さらに、須加原医学部長の提案で、臨床倫理教育を始めようとしております。2年次以降は、基礎医学、臨床医学の専門教育です。医学科は学年制です。2年次、3年次、4年次への進級には、それぞれの学年で取得すべき単位をすべて取る必要があります。この学年制も厳しくして行かなくてはなりません。

まだまだ書くことがあります。字数を超えてしまいました。同窓会の皆様には、医学教育について、たくさんのご支援をいただいておりますが、同窓会は、医学教育において、重要な人的資源の宝庫と思っていますので、よろしく願い申し上げます。